

..... 編集後記 .....

◆夏が過ぎて秋の気配がしてきました。学校では運動会が行われています。この時期になると、筑波ではカラカサタケという茸が顔を出します。この茸は焼いて食べるととても美味で、お酒に良く合います。

「今年は四本採れ、「しらたまの 一はにしみとおるあきのよの さけはしずかに のむべかりけり」と幸せな気分になりました。茸は地方によって異なるようですが、皆さんの所ではどんな茸がでていますか。マツタケが生えるには赤松と花崗岩が必要とのことですが、経験的に茸地質学なるものはありませんでしょうか。あればご一報ください。

◆さて、今月号は地球内部の熱の話から始まります。紹介記事によれば、地球内部の熱構造は色々な地質現象と関係があるとのこと。

地球は色々な変動を繰り返していますが、その変動には起点となるへそがあるのではないかと、その変化を観測すれば変動を予測できるのではないかと長い間考えてきましたが、熱構造の研究が進めば地球の地質変動を引き起こすへその一つが見つかるかもしれません。しかしながら、そのためには大久保氏の「予期せぬ何かと醤油を入れすぎたシミュレーション」の章は重要な指摘だと思います。

最近では地質学も細分化が進み、その中だけで完結しようとしているように思えてなりません。地球はもつ

と複雑なものですから、総合的な観点から検討して地球科学を体系化する必要があるのではないかと思います。

◆次には、土石流災害の緊急調査に関する記事が掲載されています。中澤氏と田口氏の記事から今回の土石流災害は地質学的必然性を持った偶然と読み取れます。また、中澤氏の第3図と第4図を見比べますと、この種の災害の必然性を明らかにするためには、災害発生が予想される地域の詳細な地質調査結果の公表が必要であることが痛感させられます。ご一読の上、この記事に習って調査を開始して見てください。

◆茂木氏によれば阪神地域は1970年から「特定観測地域」に指定されてきたとのこと。この震災も必然性を持った偶然ということになるのでしょうか。次回の完結編が待たれます。

◆私も須藤氏の記事にあるカンチャナブリ鉱山に見学に行ったことがあります。女の子が手で宝石の原石を選り分けていましたが、ただ黒いだけでとてもサファイヤとは思えませんでした。どうして彼女にわかるのか、いまでも不思議です。所詮、「餅は餅屋」ということでしょうか。我々も社会一般から見れば彼女と同じ存在なのかもしれませんね。

(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

幹事：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

委員：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田朋弘）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

ホームページ：<http://www.gsj.go.jp/HomePageJP.html>

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第517号	1997年	9月号
	定価	¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費
1997年9月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8		
	Tel. (03)3265-0951 (代表) 〒102		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トゥー・ワン		

© 1997 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。